

●高橋由美子ドイツ語学科長 ご挨拶

このたび「ドイツ語学科同窓会」がはじめて正式に発足し、ここに第1回総会ならびに懇親会が開催されることになりました。ドイツ語学科を代表いたしまして、心よりお祝い申し上げます。奇しくも今年は上智大学創立100周年です。せっかくこのおめでたい年に創設された同窓会ですから、是非とも今後末永く存続・発展し、ドイツ語学科内の縦と横のつながりが、この会の活動によって今以上に堅固なものとなることを期待いたします。

●新倉真矢子教授 ご挨拶

ドイツ語学科同窓会が設立されたことにより卒業生とドイツ語学科とのつながりがますます密になりましたこと感謝申し上げます。

ドイツ語学科の根幹ともいべきドイツ語教育では、設立当初より小人数制（現在では定員60名を3クラスに分割）による「日常生活における場面ごとの実践的コミュニケーション」を重視した教育が行われ、Native 教員による本物のドイツ語に触れる機会が提供されたことが国内外に上智大学の国際性を印象付けたことが挙げられます。現在交換留学提携校が16に増え、一般留学と合わせると毎年半数近くの学生が半年ないし1年留学し、ドイツ語圏からの留学生も多数訪れて交流が活発です。来年度より3・4次生向けの技能別・習熟度別の授業は一部、比較的専門性を重視した「読解」に移行していきます。

このように今後もドイツ語学科のドイツ語は教育プログラムの内容や方法を適宜改善していく所存ですので卒業生の皆様にはこれまで以上の応援をよろしくお願い申し上げます。

●河崎健教授 現状報告

外国語学部は2014年度より2つの学部に分かれ、国際関係副専攻とアジア文化副専攻を中心に新設の総合グローバル学部を作り、従来の語学科は、外国語学部として存続します。

しかし副専攻がなくなることで外国語学部の人気が下がることが懸念されるため、何らかの対策が必要であると学部教員は認識し、さまざまな改革案を練っております。

折しも2012年10月より、文部科学省によるグローバル人材育成事業のための補助金を外国語学部が獲得したことで、このプロジェクトを今後活かそうと模索しております。その一環としてドイツ語学科では数年前より進めてきた新たな留学の取組「在外履修」制度を立ち上げ、2015年度秋学期より、学科生のほぼ全員を最低半年間ドイツの大学に留学させることにいたしました。

また交換留学制度であるため、ドイツからの学生をドイツ語学科で受け入れ、言語研究センター開講の日本語の授業、国際教養学部の英語の授業と並んでドイツ語学科教員の開講する日独比較の授業（講義と演習）を提供することにいたします。ドイツ人学生は今年の秋よりドゥイスブルク・エッセン大学より7名が来日する予定です。

このような留学制度と並行して、ぜひ各界でご活躍のドイツ語学科のOB・OGと現役学生の交流の場を設けさせていただき、学生の実社会への関心を喚起するようなプロジェクトも考えさせていただきたく存じます。今後共よろしく願いいたします。